

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200521		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム芳玉園		
所在地	宇部市大字東須恵丸田3454-2		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町受理日	平成24年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来12年余りになり、法人関連施設での職員の異動も最小限におさえられ、入居者一人一人を深く理解し、暑中見舞い、年賀状を出すなど、家族との関係も途切れないよう工夫しながら、入居者の「出来ること」を維持できるように、お地藏様参り、体操、掃除など毎日日本人のペースを大切にしたい支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者本人の思いや希望を日々の関わりの中で汲み取られるとともに、利用者へのアンケートを実施されたり、家族からの情報をもとに行きたい場所やしたいこと等を把握されて、利用者一人ひとりを深く理解して本人の思いに近づく努力をしておられます。同一法人の5つのグループホームでのクリスマス会や運動会の後に開催される運営推進会議にはご家族も参加され、家族間の連携や家族の絆、職員との関わり等、各事業所の家族事情の話し合いをされ、本人を共に支えあう取り組みの検討が行われています。職員間のコミュニケーションは十分取れており、「職場が楽しい」「意見が言いやすい」「認知症ケアをさらに深めたい」と意欲的で明るく、利用者と一緒に過ごし共に支えあい、利用者の笑顔につながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝唱和し、実践出来るように努めている。	事業所独自の理念と介護目標である「思いやり、目配り、気配り」を玄関と事務室に掲示し、毎朝唱和して確認し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の隣の集会所であるふれあい市場に出かける。近所に散歩に出かけ、出会う方とは挨拶を交わすている。	自治会に加入し、職員は自治会行事の清掃作業や事業所周辺の草刈等を行っている。月1回自治会館でのふれあい市場に出かけて近隣農家の人と交流したり、散歩にでかけ近隣の住民とあいさつを交わすなど日常的に交流している。法人内のデイサービスセンターでのボランティアによる日本舞踊等にも参加して一緒に楽しんでいる。事業所の月間予定表を自治会館に掲示し、地域との交流が深まるよう工夫している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にもお知らせして、市の出前講座「認知症サポート養成講座」を実施した。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で話し合い、ケアの改善につなげている。	職員は自己評価の意義を理解しており、会議を通して全職員から全項目について意見をもらい管理者がまとめている。地域へ事業所の理解を深めてもらうために認知症サポーター養成講座や月間行事の掲示など、評価を活かして具合的に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、話し合いを行うように努める。	利用者とその家族、3名の民生委員、市担当課職員等の出席で年6回開催している。行事予定や利用者の状況報告、外部評価結果の報告、茶話会、施設内見学を通して事故防止のための環境整備についての意見交換して、認知症サポーター養成講座を実施する等、サービス向上に活かしている。法人5施設での合同クリスマス会の後に合同運営推進会議を実施し、各事業所の家族会や家族との連携について話合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	よくしている。	介護保険課や高齢福祉課とは、運営推進会議のほか、電話や直接出向いて相談し、連携を深め、よい協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関の施錠はしていない。	マニュアルがあり、職員は身体拘束をしないケアについて正しく理解している。外出傾向のある利用者の理由を察知し、職員間で共有し、見守りを行い、安全面からも留意している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際など、十分に説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。	苦情受付窓口担当者、第三者委員を明示し苦情処理の手続きを定め周知している。運営推進会議や合同運営推進会議、来訪時等あらゆる機会をとらえて意見や要望を積極的に聞き運営に反映させている。合同運営推進会議では家族会や家族との連携についての意見が出され検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議などで話し合っている。	毎月の職員会議や年2回の自己の目標評価時に意見や提案を聞く機会を設けている。出た意見や提案は本部に相談する体制となっており、職員の提案で「介護に関する図書」を購入するなど意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し、職員の能力向上を図っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修をはじめ、職員の能力向上に努めている。	外部研修は情報提供し、勤務変更などして受講の機会を提供している。。法人内では年に1回研修があり、事業所内研修では、毎月1回認知症についての学習をしている。新人職員には本部から指導者を招いたり、先輩職員が2ヶ月にわたり日々の実践を通して指導をしている。研修資料は閲覧出来るよう事務室に保管している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流あり。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後、1か月程度様子観察を行い、少しずつ慣れてもらうように援助している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約・または入所時などに質問を受け、不安のないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	担当を決め、細やかな支援に努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いも聞きながら、支援に努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り等家族に協力をして頂き、支援に努めている。	法人内のデイサービスを利用している知人との交流や移動美容院の継続利用、家族へ年賀状や暑中見舞状を出したり、家族の協力を得て初詣や墓参りをするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に席替えを行い、良い仲間関係が持てるように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移った利用者の様子を見に行くなどして、情報を交換している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	テレビが見たい方などは、居室にテレビを持ってきて頂いている。	日頃の言動や表情から汲み取ったり、アンケートで本人に行きたい所やしたいことなど記入してもらい、一人ひとりの思いの把握に努めている。	・把握した思いや意向を共有するための記録の工夫

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めているが。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	見直しは3か月に1度、面会時にご家族の意見も聞いている。	毎月ケアカンファレンス時にモニタリングを行い、3ヶ月毎に見直している。家族や医師、看護師等関係者、職員と話し合い、意見やアイデアを反映した個別性を重視した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を基に、職員会議などで話し合いながら、計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医を作りするなど、取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	本人、家族に協力医療機関をかかりつけ医とすることの同意を得ている。月2回の定期往診、協力医以外の受診、月1回の皮膚科および歯科の訪問診療、月2回の看護師による健康観察時等、いづれも職員が対応し、適切な医療が継続できるよう服薬管理も含めて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による月2回の健康チェックを行い、それ以外は、診療所・ディサービスの看護師に相談している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。関係づくり行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	している。	看取りの指針があり、これまで2名の看取りを行っている。実際に重度化した場合、家族には状態の変化に合わせて説明を行い、関係者とともに方針を共有し、安心して終末期が迎えられるよう支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	AEDを設置する為の説明会参加。ヒヤリハット・事故報告書を回覧し、職員の共有に努めている。	夜間の事故発生を含めた事故防止マニュアルがあり、事故防止のためにヒヤリハット・事故報告書にその内容、予防方法について記載し職員間で共有している。AEDが使えるよう全職員が研修を受けている。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行い、イメージとレーニングも行っている。	年1回、消防署の協力を得て法人内のデイサービスセンタースと合同の避難訓練を実施している。事業所内では毎月、利用者と共に避難訓練を行い、職員は夜間を想定したシュミレーションを実施している。民生委員の協力を得て地域との協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	している。	職員はプライバシーの確保や個人情報の保護の重要性についてよく理解している。トイレの誘導や入浴時など言葉かけに留意している。不適切な言葉かけや対応があれば管理者が指導している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に化粧水をつけたり、各自で化粧をされるなど、支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳など、利用者に来ることをお願いしながら行っている。	昼、夕食は法人の厨房からの配食であり、事業所内では朝食と主食を調理し、日曜日には利用者の好みを聞いて昼食を作っている。利用者はおやつ作りや味見、盛り付け、茶碗洗い、茶碗拭き等できることを職員と一緒にしている。職員も利用者と一緒に同じ食事を摂りながら会話をし、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が考え、量は職員が調整している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。訪問歯科を利用し、状態観察・治療を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を把握し、声かけを行っている。	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、さりげない声かけや誘導で、トイレでの排泄の支援をしている。オムツやパットの利用も利用者の状況を把握し、本人の負担にならないよう支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などして、体を動かし、水分摂取を促しながら、予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴を行っている。	毎日15時から17時までを入浴時間とし、2日毎の入浴を基本としている。入浴困難な場合は、言葉かけの工夫やシャワー浴や足浴など方法を工夫し、個々に応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員がいつでも処方箋が見られるようにファイリングし、確認に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	している。	テレビをみたり、貼り絵やぬりえ、習字、パズルをして楽しみ、日記をつけたり、園芸教室の受講、野菜作り、季節毎のオブジェ作り、掃除、ゴミだし、布団干し、茶碗洗い、茶碗拭き等、活躍できる場面を多くつくり、今できることに喜びを持ってもらえるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に協力をお願いしている。	その日の希望にそって、お地藏さん参りや周辺の散歩、ふれあい市場での買物、ドライブでの買物、園芸教室受講、美術館での美術鑑賞等、戸外に出かけられるよう支援している。初詣や墓参り、外食など家族の協力を得て外出出来るよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もおられる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状は毎回書いて頂いている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたオブジェなど利用者と共に作成し、取り入れている。	共用のホールは広く、壁面いっぱいの利用者の制作したオブジェは、中庭の樹木や花とともに季節を感じさせる工夫がある。テレビを囲むように大きなソファが三方にあり、ゆったりとくつろげるようになっている。廊下は広く、手すりを使って離れた場所にあるトイレまで訓練を兼ねて移動でき、事務室、台所、共用ホールは一面であり、どこからも見渡せることができ、生活感や安全に配慮した安心な居場所となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを移動したりしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒やテレビ等使い慣れた物を持ってきて頂いている。	居室は安全面に配慮し清潔で、仏壇や筆筒、テレビ、時計、写真、自作品等、使い慣れた物が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声かけは行っているが、本人の意思を配慮している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム芳玉園

作成日：平成 24年 3月 22日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故報告の取り組みや事故発生時の備え	全職員がすみやかに対応出来るように	応急手当や初期対応の看護師による研修を実施する	
2	24	思いや意向の把握	把握した思いや意向を共有する為に記録に残るように	各自記録簿に署名をするように	
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。